

ボランティア組織論

Voluntary Association Studies

2単位 2年(前期)

萩原 なつ子・非常勤講師, 榎田 美雄・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 民主主義という制度のもとで、市民は二通りの手法で自分の意見および「声」を出すことができる。一つ目は主に選挙で行う代表制民主主義である。もうひとつはNPOなど集团的レベルで社会運動の形をとる直接民主主義である。この講義では、最近の反貧困運動を含む、日本の社会運動の歴史と影響を理解するため、多様な理論等を紹介し、国際比較を行う。

【授業概要】 日本における社会運動と社会変動:理論と国際比較

【キーワード】 社会運動, 社会変動, 貧困, 不平等, グローバルな危機

【先行科目】 『ボランティア組織論Ⅱ』(1.0)

【関連科目】 『環境社会学研究』(0.5)

【履修上の注意】 この講義では、政治社会学の立場から社会運動を理解するために、社会運動のルーツと社会的影響を客観的に分析・説明する。「道徳的」に社会運動を評価したり、党派的なアプローチするものではない。

【到達目標】 社会運動に関する理解を高め、客観的な視点で理解すること。我々が民主主義の市民の一人として、社会変動に影響を与える存在であることを理解する。

【授業計画】

1. 1 イントロダクション
2. (1) ヨーロッパの社会運動論
3. (2) アメリカの社会運動論
4. 2-国境を超える社会運動:グローバル市民社会
5. (1) 海外の社会運動:フランスにおける失業者、ホームレスなど排除された者の社会運動
6. (2) トランスナショナルな社会運動:ヨーロッパの失業者運動、ヨーロッパ社会フォーラム(ビデオ付)
7. (3) 国際レベルの運動:日本のNPOの事例
8. (4) フランスと日本(二重国)の運動
9. 3-戦後日本の社会運動を考える(終戦から2010年まで)
10. (1) 住民運動の減少
11. (2) 反貧困運動の成長
12. (3) グループ・ワーク:テーマを選んで、そのテーマを社会問題化して、運動戦略、目的を考える
13. (4) グループ・ワーク
14. (5) グループ・ワーク

15. (6) 発表

16. (7) グループ・ディスカッション

【成績評価】 出席, グループ・ワーク発表, 最終小レポート。

【再試験】 行わない

【教科書】 教科書は特になし。毎回の授業でレジュメを配布し、関連する文献を示す。

【参考書】 [参考資料]

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219076>

【連絡先】

⇒ 萩原 .

⇒ 榎田 (工学部キャンパス SVBL 棟3階プロジェクト研究室1に常駐。1号館南棟1階1S19 はときどき。 , 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

Target) 民主主義という制度のもとで、市民は二通りの手法で自分の意見および「声」を出すことができる。一つ目は主に選挙で行う代表制民主主義である。もうひとつはNPOなど集団的レベルで社会運動の形をとる直接民主主義である。この講義では、最近の反貧困運動を含む、日本の社会運動の歴史と影響を理解するため、多様な理論等を紹介し、国際比較を行う。

Outline) 日本における社会運動と社会変動:理論と国際比較

Keyword) 社会運動, 社会変動, 貧困, 不平等, グローバルな危機

Fundamental Lecture) “ボランティア組織論Ⅱ”(1.0)

Relational Lecture) “環境社会学研究”(0.5)

Notice) この講義では、政治社会学の立場から社会運動を理解するために、社会運動のルーツと社会的影響を客観的に分析・説明する。「道徳的」に社会運動を評価したり、党派的なアプローチするものではない。

Goal) 社会運動に関する理解を高め、客観的な視点で理解すること。我々が民主主義の市民の一人として、社会変動に影響を与える存在であることを理解する。

Schedule)

- 1.1 イントロダクション
2. (1) ヨーロッパの社会運動論
3. (2) アメリカの社会運動論
4. 2-国境を超える社会運動:グローバル市民社会
5. (1) 海外の社会運動:フランスにおける失業者、ホームレスなど排除された者の社会運動
6. (2) トランスナショナルな社会運動:ヨーロッパの失業者運動、ヨーロッパ社会フォーラム (ビデオ付)
7. (3) 国際レベルの運動:日本のNPOの事例
8. (4) フランスと日本(二重国)の運動
9. 3-戦後日本の社会運動を考える(終戦から2010年まで)
10. (1) 住民運動の減少
11. (2) 反貧困運動の成長
12. (3) グループ・ワーク:テーマを選んで、そのテーマを社会問題化して、運動戦略、目的を考える
13. (4) グループ・ワーク
14. (5) グループ・ワーク

15. (6) 発表

16. (7) グループ・ディスカッション

Evaluation Criteria) 出席, グループ・ワーク発表, 最終小レポート.

Re-evaluation) 行わない

Textbook) 教科書は特になし。毎回の授業でレジメを配布し、関連する文献を示す。

Reference) [参考資料]

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219076>

Contact)

⇒ Hagiwara .

⇒ Kashida (SVBL3F_1, +81-88-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) MAIL (Office Hour: 火曜日_14:00 から 15:00)